

涌 監 第 2 4 号
令和6年8月30日

涌谷町長 遠 藤 积 雄 殿

涌谷町監査委員 城 口 貴志生

同 佐々木 みさ子

令和5年度涌谷町公営企業会計決算審査意見書

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された令和5年度涌谷町水道事業会計決算、令和5年度涌谷町下水道事業会計決算、令和5年度涌谷町国民健康保険病院事業会計決算、令和5年度涌谷町老人保健施設事業会計決算及び令和5年度涌谷町訪問看護ステーション事業会計決算の証書類、報告書、損益計算書、剰余金計算書、剰余金処分計算書、欠損金処分計算書及び貸借対照表を審査したので、次のとおり意見を提出します。

1 審査の対象

- (1) 令和5年度 涌谷町水道事業会計決算
- (2) 令和5年度 涌谷町下水道事業会計決算
- (3) 令和5年度 涌谷町国民健康保険病院事業会計決算
- (4) 令和5年度 涌谷町老人保健施設事業会計決算
- (5) 令和5年度 涌谷町訪問看護ステーション事業会計決算

2 審査の期間

令和6年6月24日から8月9日まで（うちヒアリング期間2日間）

3 審査の手続

令和6年6月4日、審査に付された令和5年度決算書類及び事業並びに経営状況が適正であるかどうかを審査するため、事業実施状況、財政関係諸帳票、証拠書類等を精査し、必要と思われる諸資料を提出させ、責任者より聴取するとともに、町の監査基準に基づき、下記の点に重点を置き、通常行われる審査手続きで実施した。

4 審査の重点事項

- (1) 水道事業会計
 - ア 給水状況
 - イ 工事の概要
 - ウ 収支の状況
- (2) 下水道事業会計
 - ア 処理状況
 - イ 工事の概要
 - ウ 収支の状況
- (3) 国民健康保険病院事業会計
 - ア 患者数の動向
 - イ 収益的収入及び支出
 - ウ 資本的収入及び支出
 - エ 従事職員体制
 - オ 経営分析等
 - カ 補助金、負担金
 - キ 貯蔵品及び備品
- (4) 老人保健施設事業会計
 - ア 利用者の動向
 - イ 収益的収入及び支出
 - ウ 資本的収入及び支出
 - エ 従事職員体制
 - オ 経営分析等

(5) 訪問看護ステーション事業会計

- ア 利用者の動向
- イ 収益的収入及び支出
- ウ 従事職員体制
- エ 経営分析等

5 審査の結果

審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び付属明細書は、関係法令に準拠して作成されており、当事業の当年度の経営成績及び当年度末現在の財政状態を適正に表示しているものと認められた。

6 決算の概要

(1) 水道事業会計

ア 給水状況

当年度末における給水人口については、14,115人(前年度比376人、2.6%減)、給水戸数は5,927戸(前年度比69戸、1.2%減)、年間配水量は、1,505,659^m (前年度比18,047^m、1.2%減)であった。年間有収水量については、1,233,443^m (前年度比8,230^m、0.7%減)であり、有収率は、前年度比0.4ポイント増の81.9%となった。

当年度の1^m当たりの供給単価は、296円9銭(前年度比4円21銭増)で、1^m当たりの給水原価は、270円52銭(前年度比3円28銭減)となり、供給単価との差額は、25円57銭の黒字供給であった。

○業務量

表 1

項目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	比較	
					増減	増減率(%)
行政区域内人口		15,110人	14,851人	14,480人	△371人	△2.5
年度末給水人口		14,627人	14,491人	14,115人	△376人	△2.6
年度末給水戸数		5,929戸	5,996戸	5,927戸	△69戸	△1.2
年間配水量		1,502,558 ^m	1,523,706 ^m	1,505,659 ^m	△18,047 ^m	△1.2
年間有収水量		1,271,818 ^m	1,241,673 ^m	1,233,443 ^m	△8,230 ^m	△0.7
有収率		84.6%	81.5%	81.9%	0.4ポイント	-
1日平均配水量		4,117 ^m	4,175 ^m	4,114 ^m	△61 ^m	△1.5
1日平均有収水量		3,484 ^m	3,402 ^m	3,370 ^m	△32 ^m	△0.9
1日最大配水量		4,887 ^m	4,643 ^m	4,761 ^m	118 ^m	2.5
新設給水工事		31件	88件	39件	△49件	△55.7

○水道単価の推移

表 2
(1 m³当たり)

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度との比較
1 供給単価	293円45銭	291円88銭	296円9銭	4円21銭
2 給水原価	282円92銭	273円80銭	270円52銭	△3円28銭
3 1 - 2 = 差額	10円53銭	18円8銭	25円57銭	—

$$\text{供給単価} = \frac{\text{給水収益}}{\text{有収水量}} = \frac{365,206,796\text{円}}{1,233,443\text{m}^3} = 296\text{円}9\text{銭}$$

$$\text{給水原価} = \frac{\text{総費用-受託工事費-特別損失-長期前受金戻入}}{\text{有収水量}} = \frac{333,672,626\text{円}}{1,233,443\text{m}^3} = 270\text{円}52\text{銭}$$

イ 工事の概要

老朽管更新事業として、六軒町裏地内ほか5路線の配水管敷設替工事、舗装復旧工事を60,181千円で行い、第二配水池の配水流量計交換工事を3,300千円で行った。また、水道管路台帳の電子化業務を14,520千円で行った。

ウ 収支の状況

令和5年度の事業収益は、営業収益373,129千円(対前年度比4,563千円、1.2%増)、営業外収益26,079千円(対前年度比395千円、1.5%増)、特別利益7,997千円(対前年度比、皆増)の計407,205千円(対前年度比12,955千円、3.3%増)であった。なお、そのうち給水収益は、365,207千円で、水道事業収益の89.7%(前年度より2.2ポイント減)を占めた。

費用については、営業費用353,866千円(対前年度比73千円、0.0%減)、営業外費用7,868千円(対前年度比3,279千円、29.4%減)で計361,734千円(対前年度比3,352千円、0.9%減)であった。

このうち、受託工事費を除く総括費用は333,673千円(対前年度比6,301千円、1.9%減)であった。

当年度の純利益は、45,471千円の計上となり、前年度に比べて16,308千円、55.9%の増であった。

資本的収支については、収入は32,749千円(うち仮受消費税183千円)、支出については123,859千円(うち仮払消費税7,091千円)で、収支不足額91,110千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額6,908千円、過年度分損益勘定留保資金26,548千円、当年度分損益勘定留保資金57,654千円で補填した。

なお、事業収支の状況、経営分析等は、表3から表9のとおりである。

○事業収入に関する事項

表 3

(単位：円)

項目	年度			比較	
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減	増減率(%)
営業収益	386,481,281	368,566,245	373,129,042	4,562,797	1.2
営業外収益	25,496,560	25,682,999	26,078,437	395,438	1.5
特別利益	0	0	7,996,911	7,996,911	皆増
収益合計	411,977,841	394,249,244	407,204,390	12,955,146	3.3
うち給水収益	373,213,796	362,420,896	365,206,769	2,785,873	0.8

○事業費に関する事項

表 4

(単位：円)

項目	年度			比較	
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	増減	増減率(%)
営業費用	354,491,868	353,938,885	353,865,572	△ 73,313	0.0
営業外費用	9,523,067	11,147,035	7,867,937	△ 3,279,098	△ 29.4
特別損失	0	0	0	0	—
費用合計	364,014,935	365,085,920	361,733,509	△ 3,352,411	△ 0.9
うち総括費用	334,779,337	339,973,573	333,672,626	△ 6,300,947	△ 1.9
当年度損益	47,962,906	29,163,324	45,470,881	16,307,557	55.9

$$\text{○収納率} = \frac{\text{現年度収入額(391,639千円)}}{\text{給水収益(調定額)(401,727千円)}} \times 100 = 97.5\%$$

(現年度収入額及び給水収益は税込額)

○経営指標の推移

表 5

(単位：%)

項目	年度				同規模 団体指標
	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
経常収 支比率	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$				105.28
料 金 回収率	$\frac{\text{給水収益}}{\text{費用合計} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$				90.89
有形固定資産 減価償却率	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$				52.39

※同規模団体指標の数値は、令和4年度水道事業経営指標による全国の平均値（給水人口1万人以上1万5千人未満）

○財務分析

表 6

(単位：%)

項目	年度				同規模 団体指標
	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
自己資本 構成比率	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$	75.2	76.0	76.6	75.9
固定資産対 長期資本比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	90.2	89.1	88.0	85.9
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	399.8	470.0	504.3	472.2

○支払利息の状況

表 7

(単位：千円)

項目	年度		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総費用(A)	364,015	365,086	361,734
支払利息(B)	9,523	8,441	7,868
(B) ÷ (A) × 100	2.6%	2.3%	2.2%

○企業債の状況

表 8

(単位：%)

項目	年度					同規模 団体指標
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
企業債償還元金 給水収益	$\times 100$	12.0	12.0	13.1	12.5	21.9
企業債利息 給水収益	$\times 100$	3.0	2.6	2.3	2.2	3.6
企業債元金利息 給水収益	$\times 100$	15.0	14.6	15.5	14.7	25.5

○年度毎企業債償還金の状況

表 9

(単位：千円)

項目	年度					
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
元金	47,614	45,788	45,974	45,535	46,599	46,320
利息	8,441	7,867	7,376	6,904	6,539	6,124
計	56,055	53,655	53,350	52,439	53,138	52,444

*令和6年度以降は見込み

【意見】

- ① 給水状況は、区域内人口や給水人口、給水戸数の減少を受けて、配水量や有収水量が減少した。有収率は、漏水箇所の早期発見、早期修繕に努め、81.9%で令和4年度より0.4ポイント上昇したが、大規模な漏水事故の発生もあり、令和3年度より2.7ポイント下回っている。漏水の原因は、設備の経年劣化や地震等の影響が考えられ、早期発見は容易ではないが、令和4年度決算の県平均88.5%を超える90%を目指して、引き続き漏水対策を十分行っていただきたい。

- ② 給水人口の逡減等により、事業存続のためのさまざまな検討が必要となってきたが、関係機関と事業の広域連携を進め、業務の共同発注や災害時のバックアップ体制を含めて効率化を図っていただきたい。

令和6年3月に当町を含めた12事業者による「衛星を活用した水道管路の漏水調査業務」の共同発注について基本合意を締結したが、有収率の向上など、今後の事業効果に大いに期待する。

今後も、持続可能な事業及び安全安心な飲料水の供給について努力されることを望む。

(2) 下水道事業会計

ア 処理状況

当年度末における総接続戸数は、2,263戸（公共下水道1,938戸、農集排325戸）で、対前年度比6戸（0.3%）減、総処理水量については、637,980^m（公共下水道540,919^m、農集排97,061^m）で、対前年度比26,764^m（4.0%）減、総有収水量については、596,243^m（公共下水道505,549^m、農集排90,694^m）で、対前年度比15^m（0.0%）増、有収率は、対前年度比3.8ポイント増の93.5%となった。

○業務量

表 10

事項	令和3年度	令和4年度	令和5年度	比較	
				増減	増減率(%)
公共下水道 処理区域内人口	6,918人	6,759人	6,643人	△116人	△1.7
公共下水道 接続人口	4,880人	4,734人	4,699人	△35人	△0.7
公共下水道 接続戸数	1,922戸	1,942戸	1,938戸	△4戸	△0.2
年間総処理水量	554,673 ^m	567,842 ^m	540,919 ^m	△26,923 ^m	△4.7
年間有収水量	510,878 ^m	503,749 ^m	505,549 ^m	1,800 ^m	0.4
有収率	92.1%	88.7%	93.5%	4.8ポイント	-
農集排 処理区域内人口	1,871人	1,824人	1,767人	△57人	△3.1
農集排 接続人口	1,179人	1,145人	1,111人	△34人	△3.0
農集排 接続戸数	333戸	327戸	325戸	△2戸	△0.6
年間総処理水量	102,346 ^m	96,902 ^m	97,061 ^m	159 ^m	0.2
年間有収水量	95,187 ^m	92,479 ^m	90,694 ^m	△1,785 ^m	△1.9
有収率	93.0%	95.4%	93.4%	△2.0ポイント	-

イ 工事の概要

【公共雨水事業】

江合川右岸第3排水区の田町裏地内雨水排水路設計業務を9,009千円で実施した。

【公共汚水事業】

涌谷浄化センター電気設備改修工事等を18,782千円、汚水管渠工事等を30,473千円で実施した。

【農集排事業】

箕岳中央地区処理施設等更新工事等を99,677千円、マンホールポンプ場更新工事を3,828千円で実施した。

ウ 収支の状況

令和5年度の事業収益は、営業収益119,726千円（対前年度比6,655千円、5.9%増）、営業外収益347,664千円（対前年度比14,831千円、4.1%減）の計467,390千円（対前年度比8,177千円、1.7%減）であった。

なお、下水道使用料は、公共下水道83,474千円、農集排14,047千円、合計97,521千円、下水道事業収益の20.9%を占めた。

費用については、営業費用400,736千円、営業外費用50,877千円の計451,613千円（対前年度比18,662千円、4.0%減）であった。

以上の結果、当年度の純利益は、15,777千円（対前年度比10,485千円、198.1%増）の計上となった。

資本的収支については、総収入は389,329千円、総支出は527,005千円（うち仮払消費税14,886千円）で、収支不足額137,676千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額7,152千円、過年度分損益勘定留保資金36,666千円、当年度分損益勘定留保資金93,858千円で補填した。

なお、事業収支の状況、経営分析等は、表11から表15のとおりである。

○事業収入に関する事項

表 11

(単位：円)

項目	年度	令和4年度	令和5年度	比較	
				増減	増減率(%)
営業収益		113,070,934	119,725,935	6,655,001	5.9
営業外収益		362,495,668	347,663,745	△14,831,923	△4.1
収益合計		475,566,602	467,389,680	△8,176,922	△1.7

○事業費に関する事項

表 1 2

(単位：円)

項目	年度	令和4年度	令和5年度	比較	
				増減	増減率(%)
営業費用		406,419,988	400,736,262	△5,683,726	△1.4
営業外費用		58,506,087	50,876,774	△7,629,313	△13.0
特別損失		5,349,000	0	△5,349,000	皆減
費用合計		470,275,075	451,613,036	△18,662,039	△4.0
当年度損益		5,291,527	15,776,644	10,485,117	198.1

○供給単価及び処理原価

【公共下水道】

$$1\text{m}^3\text{あたり供給単価} = \frac{\text{下水道使用料 } 83,473,687\text{円}}{\text{有収水量 } 505,549\text{m}^3} = 165\text{円}11\text{銭}$$

【農集排】

$$1\text{m}^3\text{あたり供給単価} = \frac{\text{下水道使用料 } 14,047,248\text{円}}{\text{有収水量 } 90,694\text{m}^3} = 154\text{円}89\text{銭}$$

【公共下水道】

$$1\text{m}^3\text{あたり処理原価} = \frac{\text{処理費用 } 76,951,680\text{円}}{\text{有収水量 } 505,549\text{m}^3} = 152\text{円}21\text{銭}$$

【農集排】

$$1\text{m}^3\text{あたり処理原価} = \frac{\text{処理費用 } 20,534,174\text{円}}{\text{有収水量 } 90,694\text{m}^3} = 226\text{円}41\text{銭}$$

○1 m³あたり処理原価の内訳 (合算)

表 1 3

項目	年度	令和4年度		令和5年度		比較	
		金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
職員給与費		41円24銭	22.5%	40円22銭	24.6%	△1円02銭	△2.5%
管きよ費		30円61銭	16.7%	18円15銭	11.1%	△12円46銭	△40.7%
処理場費		90円18銭	49.2%	86円49銭	52.9%	△3円69銭	△4.1%
普及指導費		0円92銭	0.5%	0円49銭	0.3%	△0円43銭	△46.7%
総係費 (職員給与費除く)		20円34銭	11.1%	18円15銭	11.1%	△2円19銭	△10.8%
合計		183円29銭	100.0%	163円50銭	100.0%	△19円79銭	△10.8%

○経営指標の推移

表 14

(公共下水道)

(単位：%)

項 目		年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	同規模 団体指標
経常収 支比率	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$		101.59	102.37	103.22	107.19
経 費 回収率	$\frac{\text{使用料収入}}{\text{汚水処理費}} \times 100$		82.07	83.96	83.55	76.78
有形固定資産 減価償却率	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$		10.97	13.66	16.30	22.89

※同規模団体指標の数値は、令和4年度決算経営比較分析表による類似団体平均値（処理人口3万人未満、処理区域内人口密度25人/ha未満、供用開始後年数15年以上30年未満）

(農集排)

(単位：%)

項 目		年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	同規模 団体指標
経常収 支比率	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$		103.09	102.06	104.27	105.50
経 費 回収率	$\frac{\text{使用料収入}}{\text{汚水処理費}} \times 100$		57.87	64.61	66.58	52.94
有形固定資産 減価償却率	$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \times 100$		12.15	15.10	17.77	25.19

※同規模団体指標の数値は、令和4年度決算経営比較分析表による類似団体平均値（供用開始後年数15年以上30年未満）

○企業債の概要

表 15

(単位：円)

前年度末残高	本年度借入高	本年度償還高	本年度末残高
3,498,299,227	180,636,000	363,256,501	3,315,678,726

【意見】

- ① 江合川右岸第3排水路整備事業の一部実施設計及び周辺住民への説明会を実施する等、概ね計画通りの事業進捗であると見受けられる。今後とも、関係者との打ち合わせや協議等を十分重ね、町民の安全安心な生活の確保に努力していただきたい。
- ② 当年度は、公共下水道事業においては下水道ストックマネジメント計画、農業集落排水事業においては最適整備構想により、涌谷浄化センターや箕岳中央処理施設の機械設備等の更新等を行い、各処理施設の施設機能の維持に努めている。施設設備の老朽化は避けては通れない懸案であるが、今後も、改築や更新等には、長寿命化や財源確保策を含めて、可能な限り事業が安定的に継続するような方法の検討を望む。

(3) 国民健康保険病院事業会計

○総括事項

業務予定量を入院患者1日平均88人(対前年度比13人減)、外来患者1日平均200人(対前年度比32.3人増)とし、入院366日、外来243日、救急外来366日の診療を実施した。

診療体制については、内科、整形外科、眼科は週5日、泌尿器科及び皮膚科は週2日、神経内科、循環器内科及び耳鼻咽喉科は週1日を確保した。

訪問診察については、243日、641件(対前年度比12件減)の診察を行った。

また、休日当番については、一次診療を6回、二次の病院群輪番制の整形外科、外科を合わせて5回担当した。

ア 患者数の動向

表16のとおり、入院患者数は、年間延べ32,324人(対前年度比延べ3,270人、11.3%増)で、1日平均88.3人(対前年度比8.7人増)となり、業務予定量を0.3人上回る結果となった。

外来患者数は、年間延べ48,924人(対前年度延べ4,824人、10.9%増)で、1日平均201.3人(対前年度比19.8人増)となり、業務予定量を1.3人上回る結果となった。また、救急外来で取り扱った患者数は延べ1,095人(対前年度比98人、9.8%増)となった。

なお、町内の患者の占める割合は、入院については22,563人、69.8%(対前年度比3,022人、15.5%増)、外来では37,238人、76.1%(対前年度比3,822人、11.4%増)であった。

病床利用率は、年平均89.2%で、対前年度比23.4ポイントの大幅な増となっている。

○年間患者数

表 16

(単位：人)

項目		年度	年間患者数	町内患者数	町内患者の割合 (%)
入院		令和4年度	29,054	19,541	67.3
		令和5年度	32,324	22,563	69.8
	比較	増減	3,270	3,022	
		増減率(%)	11.3	15.5	
外来		令和4年度	44,100	33,416	75.8
		令和5年度	48,924	37,238	76.1
	比較	増減	4,824	3,822	
		増減率(%)	10.9	11.4	
合計		令和4年度	73,154	52,957	72.4
		令和5年度	81,248	59,801	73.6
	比較	増減	8,094	6,844	
		増減率(%)	11.1	12.9	

イ 収益的収入及び支出

病院事業収益については、医業収益のうち、入院収益は858,369千円（対前年度比114,382千円、15.4%増）、外来収益は664,263千円（対前年度比5,810千円、0.9%増）となり、医業収益合計では、1,722,764千円（対前年度比132,225千円、8.3%増）となった。

医業外収益については、373,045千円（対前年度比84,143千円、18.4%減）で、そのうち、補助金、負担金及び交付金が265,373千円となり、昨年度より122,853千円減少している。

この結果、病院事業収益全体では2,095,809千円となり、前年度と比較して48,082千円（2.3%）の増となった。

病院事業費用については、医業費用1,936,508千円（対前年度比50,132千円、2.7%増）、医業外費用は87,516千円（対前年度比14,281千円、19.5%増）、特別損失として63,901千円を計上し、病院事業費用合計では2,087,925千円、前年度と比較して125,448千円（6.4%）の増となった。

これにより、7,884千円（前年度85,251千円の純利益）の当年度純利益を計上し、前年度繰越欠損金1,575,852千円と合わせて、当年度未処理欠損金1,567,968千円を翌年度に繰り越した。

ウ 資本的収入及び支出

資本的収入については、企業債105,200千円、他会計補助金40,000千円、他会計負担金43,966千円の計189,166千円となった。

資本的支出については、建設改良費152,622千円（うち仮払消費税12,407千円）、償還金78,280千円の計230,902千円となった。

建設改良については、器械備品として電子カルテシステム107,800千円、診断用X線装置8,965千円、ナースコールシステム6,435千円、輸液ポンプ5,622千円などを整備した。

なお、当年度末の企業債未償還金残高は、628,539千円（対前年度比56,120千円増）となっている。

○事業収益・費用に関する事項

表 17

項目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	比 較		
		A	B	C	B/A	C/B	C/A
病院事業収益	千円	1,913,073	2,047,727	2,095,809	107.0	102.3	109.6
医業収益		1,676,847	1,590,539	1,722,764	94.9	108.3	102.7
医業外収益		218,468	457,188	373,045	209.3	81.6	170.8
特別利益		17,758	0	0	皆減	-	皆減

項目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	比 較		
		A	B	C	B/A	C/B	C/A
病院事業費用	千円	2,011,591	1,962,477	2,087,925	97.6	106.4	103.8
医業費用		1,933,344	1,886,376	1,936,508	97.6	102.7	100.2
医業外費用		78,247	73,235	87,516	93.6	119.5	111.8
特別損失		0	2,866	63,901	皆増	2,229.6	皆増
うち給与費(再掲)		1,120,600	1,104,499	1,105,809	98.6	100.1	98.7

当年度損益	△ 98,518	85,251	7,884
-------	----------	--------	-------

エ 従事職員体制

診療体制については、表18のとおり、前記総括事項で述べた診療科目に常勤医師10人(対前年度比1人増)であった。

看護部門については、看護師57人、保健師1人、准看護師1人、介護福祉士1人の計60人(対前年度比5人減)であった。

技術部門については、薬剤師4人、放射線技師3人、検査技師3人、理学療法士5人、作業療法士3人、言語聴覚士1人、管理栄養士2人の計21人(対前年度比1人増)であった。

事務部門については11人(対前年度比増減なし)で、総数102人(対前年度比3人減)で病院会計事業を行った。

また、会計年度任用職員は、54人であった。

○従事職員の推移

表 18

職種	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比較
医 師		8	9	10	1
看 護 部 門		67	65	60	△ 5
技 術 部 門		22	20	21	1
事 務 部 門		13	11	11	0
合 計		110	105	102	△ 3

各年度末

オ 経営分析等

経営分析の推移については、表 19 のとおりであるが、経常収支比率、医業収支比率及び病床利用率において、資金不足解消計画値との差が小さくなった。

○経営分析の推移

表 19

項目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備考	
経常収支比率 (%)		94.2	104.5	103.5	高い程よい	
	資金不足解消計画値	102.1	100.4	103.2		
修正医業収支比率 (%)		86.7	84.3	89.0		
	資金不足解消計画値	96.2	94.1	89.4		
流動比率 (%)		50.9	64.9	70.2		
医師1人1日当たりの診療収入 (円)		382,251	334,153	348,599		数値は関連させて検討する必要あり
看護師1人1日当たりの診療収入 (円)		45,021	41,315	48,711		
入院患者1人1日当たりの診療収入 (円)		24,868	25,607	26,555		
外来患者1人1日当たりの診療収入 (円)		16,806	14,931	13,577		
医師1人1日当たりの患者数 (人)		18.7	17.4	18.9		
看護師1人1日当たりの患者数 (人)		2.2	2.2	2.6	高い程よい	
病床利用率 (%)		74.1	65.8	89.2		
	資金不足解消計画値	86.8	83.5	88.9		
外来対入院患者比率 (%)		123.8	151.8	151.4		
職員給与費対医業収益比率 (%)		66.8	69.4	64.2	小さい程よい	
	資金不足解消計画値	61.8	62.3	62.9		
薬品費対医業収益比率 (%)		22.3	21.8	20.60		
	資金不足解消計画値	19.7	20.4	20.0		

経費については、表 20 のとおりであるが、前年度と比較して、増減率では職員被服費が 77.9%、消耗備品費が 76.2% と大きく減少している。また、増加額で見ると、委託料が 8,720 千円 (6.0%)、燃料費が 4,626 千円 (27.2%) の増額となっている。

○経費の前年度対比

表 20

(単位:円)

年度		令和4年度	令和5年度	比較増減	増減率(%)
項目	経費	273,441,758	289,630,886	16,189,128	5.9
内訳	厚生福利費	1,722,137	1,730,397	8,260	0.5
	旅費交通費	3,163,252	2,422,784	△740,468	△23.4
	職員被服費	1,576,409	348,410	△1,227,999	△77.9
	消耗品費	12,543,646	12,649,945	106,299	0.8
	消耗備品費	1,384,091	329,000	△1,055,091	△76.2
	光熱水費	45,288,604	45,895,939	607,335	1.3
	燃料費	17,012,138	21,638,042	4,625,904	27.2
	食料費	195,505	168,721	△26,784	△13.7
	印刷製本費	617,400	546,260	△71,140	△11.5
	修繕費	9,054,359	13,477,098	4,422,739	48.8
	保険料	2,159,525	2,137,336	△22,189	△1.0
	賃借料	23,949,729	23,940,952	△8,777	0.0
	通信運搬費	1,739,404	1,779,889	40,485	2.3
	委託料	145,166,155	153,886,259	8,720,104	6.0
	諸会費	3,266,462	4,459,453	1,192,991	36.5
	交際費	46,914	99,858	52,944	112.9
雑費	4,556,028	4,120,543	△435,485	△9.6	

カ 補助金、負担金

収益的収入における補助金、負担金については、総務省の繰出基準に基づく一般会計負担金223,684千円、一般会計補助金57,394千円及び国県補助金等71,055千円で、総額352,133千円(対前年度107,711千円減)の交付を受け、病院事業収益に占める割合は16.8%(前年度22.4%)であった。

資本的収入における補助金、負担金については、国保特別調整交付金40,000千円、総務省の繰出基準に基づく一般会計負担金43,966千円で、総額83,966千円(対前年度30,831千円増)の交付を受けた。

なお、収益的収入及び資本的収入に係る補助金、負担金の状況は、表21のとおりである。

○補助金、負担金

表 2 1

(単位:千円)

項目		年度	令和4年度	令和5年度	比較増減	増減率(%)		
○収益的収入								
医業外収益	医業収益	一般会計負担金	71,618	86,760	救急医療及び保健衛生行政	15,142	21.1	
		補助金	265,583	128,449		△ 137,134	△ 51.6	
		一般会計補助金	45,538	57,394		11,856	26.0	
		その他の補助金	220,045	71,055	病院群輪番制補助金	1,962	△ 148,990	△ 67.7
					休日診療運営費補助金	647		
					涌谷町町民医療福祉センター災害復旧事業補助金	27,322		
					令和5年度 宮城県新型コロナウイルス感染症対策事業医療提供体制整備事業補助金	8,292		
					病床機能再編支援事業補助金	32,832		
		負担金交付金	122,643	136,924		14,281	11.6	
		一般会計負担金	122,643	136,924		14,281	11.6	
	小計	388,226	265,373		△ 122,853	△ 31.6		
○資本的収入								
	国庫補助金	7,862	0		△ 7,862	皆減		
	その他資本的収入	267	0		△ 267	皆減		
	他会計補助金	0	40,000	国保特別調整交付金	40,000	皆増		
	他会計負担金	45,006	43,966	一般会計負担金	△ 1,040	△ 2.3		
	小計	53,135	83,966		30,831	58.0		
	合計	512,979	436,099		△ 76,880	△ 15.0		

キ 貯蔵品及び備品

貯蔵品については、表22のとおりで、適正な在庫管理が行われている。

表 2 2

(単位:円)

項 目	金 額
令和5年4月1日期首在庫額	14,035,579
年度内購入額	428,808,311
年度内費用額	404,759,000
年度内資産減耗額	26,084,241
令和6年3月31日期末在庫額	12,000,649

各種医療用機器は、定期的な保守点検等によって管理運用がなされ、車両と共に減価償却において定額法に従って整理の上、適切に処理されている。

【意見】

- ① 当年度当初に内科の常勤医師2名を迎え入れ、4月末に会計年度医師1名が退職してから、1年間勤務医師数が同じレベルで推移したことは、幸運であった。もちろん医療従事者の不足には、人材派遣会社に頼らない大学医局を通しての派遣、直接契約等といった様々な確保策が不可欠であり、年間を通じた確保策の実施が、継続的な診療体制の維持につながったと思われる。診療体制の維持及び利用者の安心な受診につながる医療従事者の確保に、今後も関係者の努力を期待したい。
- ② 当年度は、病院経営に精通したコンサルティング会社と業務委託を締結し、支援を受けた。経営強化プラン策定支援や様々な経営改善支援を受け、病床機能の見直しや削減等を行い、適切なベッドコントロールを進めた結果、病床稼働率、患者数、入院収益、医業収支比率等の数値が大幅な改善となったことは、大変良い結果であった。これは担当部署等、関係者のたゆまぬ努力の成果であると思われるが、病院を取り巻く環境の変化が常に有り得るので、今後も支援会社の協力のもと、経営改善のための日々の努力を期待したい。
- ③ 国の公立病院経営強化ガイドラインを受け、昨年10月に締結された大崎地域の医療提供体制の確保に係る連携協定を踏まえ、新年度から国保病院の運営体制が見直されることとなったが、特に、夜間の診療体制の変更については、医師等の働き方改革や持続可能な診療体制の確保等、町民に対する丁寧な周知や説明が必要であり、当面の間、広報や行政区長会議等で適宜、変更内容を説明していくべきと考える。

(4) 老人保健施設事業会計

○総括事項

業務予定量を1日平均入所者73人(対前年度同比5人減)、通所者については、介護給付28人(対前年度比1人減)及び予防給付8人(対前年度比2人増)の計36人(対前年度比1人増)、居宅については、年間延べ利用者972人(対前年度比216人増)、入所366日、通所305日、居宅243日として事業運営を行った。

ア 利用者の動向

入所利用者数は、年間延べ26,580人(対前年度比1,356人、5.4%増)、1日平均72.6人(対前年度比3.5人増)で、業務予定量を0.4人下回る結果となった。

通所利用者は、年間延べ8,439人(対前年度比294人、3.4%減)、1日平均27.7人(対前年度比2.2人減)で、業務の予定量を8.3人下回る結果となった。

なお、町内の入所者は、21,240人で全体の79.9%（昨年度78.9%）を占め、通所者は7,644人、90.6%（昨年度90.5%）であった。

居宅利用者数は、年間延べ976人（対前年度比1人、0.1%減）で業務の予定量を4人上回った。

入所者のベッド利用率は、90.8%で、前年度より4.4ポイントの増となった。年間利用者の数値は、表23のとおりである。

○年間利用者数

表 23

(単位：人)

年度		項目	年間利用者数	町内利用者数	町内利用者の占める割合(%)
入所	令和4年度		25,224	19,897	78.9
	令和5年度		26,580	21,240	79.9
	比較	増減	1,356	1,343	
		増加率(%)	5.4	6.7	
通所	令和4年度		8,733	7,907	90.5
	令和5年度		8,439	7,644	90.6
	比較	増減	△294	△263	
		増加率(%)	△3.4	△3.3	
居宅	令和4年度		977		
	令和5年度		976		
	比較	増減	△1		
		増加率(%)	△0.1		
合計	令和4年度		34,934	27,804	79.6
	令和5年度		35,995	28,884	80.2
	比較	増減	1,061	1,080	
		増加率(%)	3.0	3.9	

イ 収益的収入及び支出

収益については、事業収益472,466千円（対前年度比22,407千円、5.0%増）（うち入所収益366,660千円、通所収益92,910千円、居宅収益10,027千円、その他事業収益2,869千円）、事業外収益92,843千円（対前年度比69,585千円、299.2%増）、計565,309千円（対前年度比91,99千円、19.4%増）で、費用については、事業費用546,823千円（対前年度比20,520千円、3.9%増）、事業外費用2,577千円（対前年度比1,352千円、34.4%減）、災害による特別損失27,496千円（対前年度比、26,214千円、2,044.8%増）、計576,896千円（対前年度比45,382千円、8.5%増）となり、収支で11,587千円の純損失（前年度58,196千円の純損失）の計上となった。

この結果、前年度繰越欠損金270,759千円と合わせて、当年度未処理欠損金282,346千円を翌年度に繰り越した。

○事業収益・費用に関する事項

表 24

項目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	比 較		
		A	B	C	B/A	C/B	C/A
収 益	千円	494,971	473,318	565,309	%	%	%
事業収益		476,102	450,060	472,466	95.6	119.4	114.2
事業外収益		18,869	23,258	92,843	123.3	399.2	492.0
特別利益		0	0	0	—	—	—

項目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	比 較		
		A	B	C	B/A	C/B	C/A
費 用	千円	508,370	531,514	576,896	%	%	%
事業費用		503,119	526,303	546,823	104.6	108.5	113.5
事業外費用		5,251	3,929	2,577	74.8	65.6	49.1
特別損失		0	1,282	27,496	皆増	2,144.8	皆増
うち給与費(再掲)		341,700	360,285	377,199	105.4	104.7	110.4

当年度損益	△ 13,399	△ 58,196	△ 11,587
-------	----------	----------	----------

ウ 資本的収入及び支出

資本的収入については、企業債4,100千円、一般会計から22,562千円及び訪問看護ステーション事業会計から11,281千円の出資金の計37,943千円となり、資本的支出については、冷凍冷蔵庫等の購入として建設改良費5,290千円、償還金34,083千円の計39,373千円となった。

エ 従事職員体制

職員体制については、専任として看護師12人、准看護師1人、理学療法士2人、作業療法士4人、管理栄養士1人、介護福祉士14人、事務2人の計36人(対前年度比4人減)で、その他フルタイム会計年度任用職員19人及びパートタイム会計年度任用職員12人の計67人(対前年度比1人減)で業務に当たった。

オ 経営分析等

経営分析の推移は、表25のとおりである。

○経営分析

表 25

項目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備 考
経常収支比率	(%)	97.4	89.1	98.0	高い程よい
事業収支比率	(%)	94.6	85.5	86.4	
流動比率	(%)	143.7	90.1	96.5	
入所1人当たり平均単価	(円)	13,371	13,599	13,795	数値は関連させて検討する必要あり
通所1人当たり平均単価	(円)	10,622	10,768	11,010	
看護師・介護員1人1日当たり入所介護収入	(円)	39,490	36,203	37,722	
看護師・介護員1人1日当たり通所介護収入	(円)	31,416	28,488	31,656	
看護師・介護員1人1日当たり入所者数	(人)	3.0	2.7	2.7	
看護師・介護員1人1日当たり通所者数	(人)	3.0	2.6	2.9	
ベット利用率	(%)	93.8	86.4	90.8	高い程よい
職員給与費対事業収益比率	(%)	69.8	76.6	77.1	小さい程よい
介護用品(医薬品・医療用消耗品・おむつ代)対事業収益比率	(%)	3.0	3.0	2.9	

経費の前年度対比は、表26のとおりであるが、経費総額109,864千円で、燃料費、賃借料等の増額がある一方、委託料等が減額となり、対前年度比3,423千円、3.2%増となった。総事業費に占める割合は、19.0%(前年度20.0%)で、1.0ポイントの減となった。

○経費の前年度対比

表 26

(単位:円)

項目	年度	令和4年度	令和5年度	比較増減	増減率(%)
経	費	106,441,401	109,864,182	3,422,781	3.2
内訳	厚生福利費	778,388	807,910	29,522	3.8
	報償費	0	0	0	-
	職員被服費	400,426	138,386	△262,040	△65.4
	消耗品費	3,871,502	4,557,826	686,324	17.7
	消耗備品費	0	56,100	56,100	皆増
	光熱水費	15,597,312	15,574,780	△22,532	△0.1
	燃料費	9,053,303	11,041,167	1,987,864	22.0
	食料費	12,434	3,501	△8,933	△71.8
	印刷製本費	79,200	98,780	19,580	24.7
	修繕費	3,639,907	3,692,485	52,578	1.4
	保険料	670,696	673,926	3,230	0.5
	賃借料	16,629,494	18,519,073	1,889,579	11.4
	通信運搬費	641,014	559,931	△81,083	△12.6
	委託料	52,474,943	50,933,863	△1,541,080	△2.9
	諸会費	150,000	150,000	0	0.0
雑費	2,442,782	3,056,454	613,672	25.1	

【意見】

① 当年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らいだことから、入所については利用者数、収益が多少上向いたが、通所は引き続き利用者数、収益共減少している。その結果、経常収支比率は、令和3年度並みに戻ったが、年度途中で50,000千円の繰入金を受けてのことであり、100%を下回っている。

事業収支比率は若干改善したものの、低い段階にとどまっている。大変厳しい状況に置かれている当施設であるが、過度な投資にならないように、適正な事業実施に努める等、改善に向けた努力を期待したい。

② 近年の決算状況から考慮すると、当町の介護の状況や老健施設の経営分析をし、長期的な施設の在り方を含めて、収支改善に向けた方向性を検討するべき時期に来ていると考える。

(5) 訪問看護ステーション事業会計

○総括事項

業務予定量は、1日平均利用者数を平日30人（前年度同数）土曜2人（前年度同数）とし、訪問看護297日（平日244日、土曜53日）、訪問リハビリ244日を実施した。

また、24時間緊急連絡体制を継続実施した。

ア 利用者の動向

訪問看護ステーションの利用状況については、表27のとおりであるが、訪問看護は、年間延べ4,125人（平日3,991人、土曜134人、対前年度比83人、2.1%増）1日平均13.9人（平日16.4人、土曜日2.5人、対前年度比0.2人増）で、訪問リハビリについては、年間延べ3,170人（対前年度比25人、0.8%減）、1日平均13.0人（対前年度比0.1人減）で、合計延べ7,295人（対前年度比58人、0.8%増）となり、1日平均業務予定量を平日は1.1人下回り、土曜日は0.5人上回った。

○訪問看護ステーション保険別利用状況

表 27

(単位：人)

保 険 別		訪問延人数		対前年度比較	
		令和4年度	令和5年度	増 減	増減率(%)
介護保険	訪 問 看 護	2,777	2,805	28	1.0
	リ ハ ビ リ	2,288	2,364	76	3.3
医療保険	訪 問 看 護	1,265	1,320	55	4.3
	リ ハ ビ リ	907	806	△ 101	△ 11.1
訪 問 看 護 計		4,042	4,125	83	2.1
リ ハ ビ リ 計		3,195	3,170	△ 25	△ 0.8
合 計		7,237	7,295	58	0.8

イ 収益的収入及び支出

収益的収入については、事業収益及び事業外収益で60,429千円（対前年度比1,266千円、2.1%増）、収益的支出については、事業費用63,963千円（対前年度比5,893千円、10.1%増）で、主たる費用は給与費57,522千円（前年度51,976千円）であり、費用全体の89.9%（前年度89.5%）を占めている。

その結果、当年度純損失3,534千円（前年度純利益1,093千円）の計上となった。

前年度繰越利益剰余金82,527千円と合わせて、当年度未処分利益剰余金は78,993千円となり、翌年度へ繰り越した。

事業収益、費用については、表28のとおりである。

○事業収益・費用に関する事項

表 28

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	比 較		
	A	B	C	B/A	C/B	C/A
収 益	千円 59,535	千円 59,163	千円 60,429	% 99.4	% 102.1	% 101.5
事 業 収 益	59,479	59,126	60,424	99.4	102.2	101.6
事 業 外 収 益	56	17	5	30.4	29.4	8.9
特 別 利 益	0	20	0	皆増	皆減	—

項目 \ 年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	比 較		
	A	B	C	B/A	C/B	C/A
費 用	千円 52,887	千円 58,070	千円 63,963	% 109.8	% 110.1	% 120.9
事 業 費 用	52,887	58,070	63,963	109.8	110.1	120.9
うち給与費(再掲)	47,919	51,976	57,522	108.5	110.7	120.0

当 年 度 損 益	6,648	1,093	△ 3,534
-----------	-------	-------	---------

ウ 従事職員体制

従事職員は、看護師3人、理学療法士1人、作業療法士2人の計6人、その他フルタイム会計年度任用職員2人の計8人（前年度同数）で業務に従事した。

エ 経営分析等

経営分析の推移は、表29のとおりである。

項目	年度	令和4年度	令和5年度	備考
	経常収支比率 (%)	101.8	94.5	
事業収支比率 (%)	101.8	94.5		
流動比率 (%)	877.3	642.4		
職員1人1日当たり事業収入 (円)	37,469	39,059		
利用者1人1日当たり事業収入 (円)	8,170	8,283		
看護職員1人1日当たり利用者数 (人)	4.8	5.1		
リハ職員1人1日当たり利用者数 (人)	4.4	4.3		

【意見】

- ① 給与費や経費が増加したことにより、結果として、前年度比で当年度損益や経常収支比率、事業収支比率等の数値が悪化している。少ない人数での運営で、人件費割合の高い事業であり、従事者の入れ替わりにより収支が変動することは止むを得ないことではあるが、なお一層、収支改善に努力されることを期待する。
- ② 町内で唯一の訪問看護事業所であり、利用者等の安心な生活に大いに寄与する事業であるので、引きつづき利用者の期待と要望に応えるよう、一層の努力を望む。